

チェルノブイリ通信

2011年6月20日

No.84

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26/パステル館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



ミンスク市の夕暮れ。スピスロッチ河畔を孫娘と散歩。

特集:ブレスト第10回検診帰国報告(3)

点から線への支援展開を目指して

チェルノブイリ、ブレストの戦禍……
ベラルーシを再訪して

チェルノブイリから25年目をむかえて

今こそ知りたい!日本の原発Q&A

事務局日誌より主な活動報告

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

点から線への支援展開を目指して

日本医科大学付属病院病理部

村瀬 幸宏

3度目のベラルーシ訪問

2003年より日本医科大学の臨床検査技師がプレスト検診に派遣され、早8年が経過。今回、私自身は3回目の検診参加となりました。

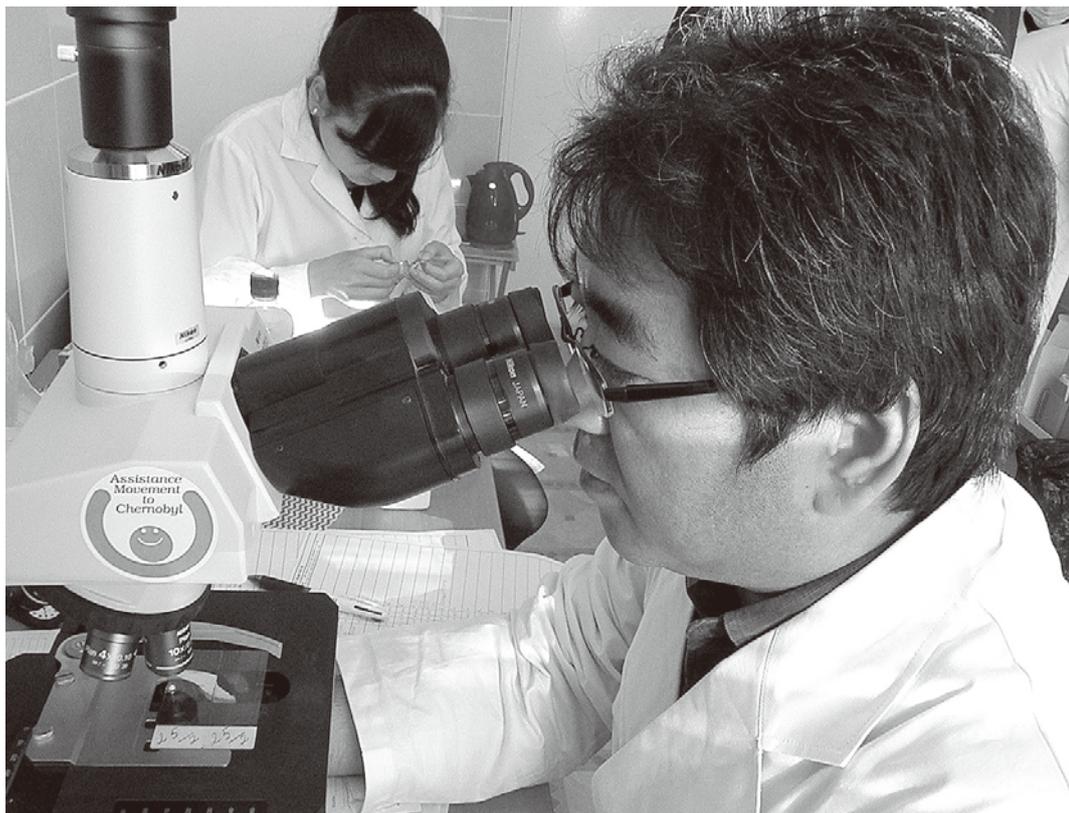
検診も3回目となると、ベテランと思われがちですが、毎回いろいろな出来事があり、行く前はいつも不安で一杯です。

1回目は2005年の第5回検診で、その時は成田、フランクフルト経由でミンスクに行きました。荷物のトラブルのためミンスクの空港で1時間以上待たされた記憶があり、内心とんでもない所に来てしまったと後悔しました。

検診はプレストに到着した日の午後と次の日の午前中の正味1日で、検診者数は31名、そのうち2名にがんが見つかりました。初めてのため、大変戸惑いましたがどうにか無事終わることができました。

2回目は2008年の第8回検診で、成田、モスクワ経由でミンスクに行きました。第6回よりこの経由になりました。

検診は2日間で検診者数は52名、そのうち7名にがんが見つかりました。前年、日本医科大学で清水先生の甲状腺手術を受けたアリオシャさんが来てくれ、帰りにはアリオシャさんの家に招かれ、本場のベラルーシ家庭料理をご馳走になりました。



顕微鏡で細胞を調べる臨床検査技師の村瀬さん。2010年10月、プレスト州立内分診療所に於て。

アリョーシャさんの家のあるピンスクは検診地のプレストより車で約2時間位かかる所であり、なかなか行けない所に行け、貴重な経験をしました。

50名の診断を実施

3回目は、第10回検診の今回でした。ミンスクの町は高層ビルの建設ラッシュ。2005年にはブラウン管テレビが主流でしたが、今では電気店に並んでいるテレビのほとんどが液晶やプラズマテレビになり、ベラルーシの人々の生活レベルの向上がうかがえます。

今回の検診は2日間で検診者数は50名。そのうち1名のがんが見つかりました。細胞診の染色は志摩先生を筆頭に宮地先生、学生さんたちにお任せし、私は顕微鏡で細胞を診ることに専念でき、無事終わることができました。本当に感謝の一言です。

清水先生の内視鏡手術も前

回のプレストから今回はミンスクへと所を変え行われました。以上、私が検診に参加した時の印象に残ったことでした。

今後に向けて

これからの甲状腺がん検診について現在、細胞診断の症例集（バーチャルスライド）の作成を計画しています。このバーチャルスライドとは、標本一枚をコンピュータに取り込み、視野の移動や拡大など実際の顕微鏡を見るのと同じ操作をコンピュータ上で

出来るもの。完成すれば、ベラルーシと日本の細胞診断基準など議論ができることはもとより、これから細胞診断を学ぼうとするベラルーシの医療従事者の方の役に立つと思われれます。

これから私たちは、ただ参加して仮診断をするだけではなく、ベラルーシの人々の普段の診断業務に役に立つ支援の仕方も大切であり、点ではなく線になるような検診でなくては意味がないと考えます。

そのためには我々ももっと勉強しなければなりません。

今回のみならず、毎回試薬を提供していただいている武藤化学様、チエルノブイリ医療支援ネットワーク事務局の皆様、また医療コーディネーターの山田様の努力のおかげで無事検診が終わることができたと思います。この場を借りてお礼を申し上げます。（※今年1月にご寄稿いただきました。）



今だからこそ、もう一度読みたい

子どもたちの見た、チェルノブイリ



1995年に発行した、チェルノブイリの子どもたちによる作文集をこの度値下げしました。この機会にぜひお買い求めください。

◆作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』
◆定 価：1300円 → 500円

(※少し黄ばみがあります。ご了承ください。)

●特集● ブレスト第10回検診帰国報告(3)

チェルノブイリ、ブレストの戦禍……

ベラルーシを再訪して

チェルノブイリ医療支援ネットワーク会員

福間 由紀子

チェルノブイリは、
まだ終わっていない

昨年の夏は日本でも記録的な暑さでしたが、ロシアでは猛暑による森林火災が各地で発生し、深刻な状況でした。

そんなロシアから「森林火災を封じ込めなければ、チェルノブイリ事故により汚染されたブリヤンスク地域で、放射性物質の拡散が懸念される」というニュースが届きました。ロシアの非常事態相が発表したものです。

その後、汚染地域では火事は起こっていないとか、いや、数十か所で発生しているとか、放射性

物質は土壤深部にあるので火災での飛散はごくわずかだとか、情報は錯綜しながら、いつのまにか収束。結局、深刻な影響はないと判断されたのでしょうか。

しかし、今回は地表のみの火災なので影響がないということ、は、もしも土壤深部まで影響を与えるようなことが起これば、放射能汚染の拡散もありうるということではないか？消火活動にあたった人たちには全く影響がなかったのか？素人の私にはこのような疑問が残るのです。チェルノブイリはまだ終わっていないことを改めて認識しました。



旅程を終え、モスクワへ出発
前列中央が福岡さん

現地で感じた、 今後へ向けての提言

そんな思いを抱きながら10月、第10回検診団の一員として、ベラルーシを訪れました。今回は5人もの若い方が参加されたので活気があり、また、清水先生の手術を目の当たりにするとう貴重な体験もさせて頂き、とても充実したものとなりました。検診団についての報告はすでに通信12月号に掲載されていますので詳細は省きますが、ブレストでは、今までの医療支援が

十分に活かされ、現地の医師のスキルの高さも再度確認しました。

今後の支援に関しては、現地のニーズや支援ネットワークが、実際にどの範囲まで支援できるかなどを熟慮して検討することが必要かと思えます。また、若い方の参加はとても嬉しいことですので、十分な事前学習会や現地の医師との気軽な情報交換の場などがあると、より有意義な訪問になるように思いました。

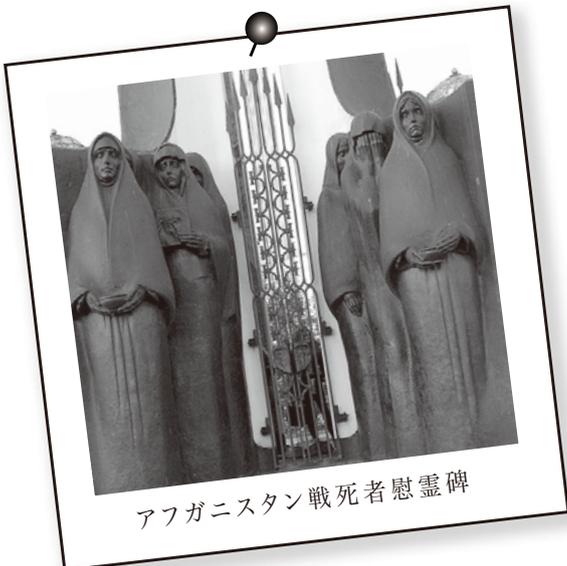
戦争とチェルノブイリの 惨禍を受けた国

ブレストの要塞。この通信にも何度となくその名前は登場したと思えますが、この要塞を舞台にした映画が昨年に公開されました(日本での公開は不明)。ブレストは現在ポーランドとの国境に位置しますが、ソ連領、ドイツ領、ポーランド領と、歴史のはざままで翻弄されてきた土地です。第2次大戦時はソ連領とし

て独ソ戦の火ぶたが切られました。要塞の守備兵は、一カ月にわたつてドイツ軍に対して抵抗を続け、ほとんどの兵士が犠牲になり、子どもも女性も病院の患者たちでさえ殺されたそうです。映画のサイトの予告編を見るだけでも当時の悲惨さに背筋が凍るようです。

また、ソ連のアフガニスタン侵攻(1979~1989)では、ソ連側で一番多く戦死したのがベラルーシ出身の兵士だったそうです。ミンスク市内を流れるスビスロツチ川の中州にはその兵士たちのために慰霊碑が作られています。遠方から眺めると美しい姿の慰霊碑ですが、涙を流す母や幼子を抱いた妻などの像が3面に立ち並び、その悲しい表情に胸を打たれます。その姿には、同じく家族を失ったアフガニスタンの女性の姿や、チェルノブイリの犠牲者

を悼む家族の姿も重なって見えてきます。
(※今年1月にご寄稿いただきました。)



アフガニスタン戦死者慰霊碑



ブレスト要塞内の石碑

チエルノブイリから25年目をむかえて

今年4月26日、チエルノブイリ原発事故から25年目を迎えました。国内で行われたコンサート、報告会、講演会について報告します。

4月22日、他

第7回ル・セルクル チャリティコンサート チエルノブイリ原発事故から25年 東日本大震災復興を願って



米良さんと小山

戦時中、動物園のゾウたちの命を守った実話が、合唱構成『ぞうれっしやがやってきた』として各地で歌われています。一昨年、福岡市で「ル・セルクル」という音楽団体の久保山千可子さんと出会い、共にこの「ぞうれっしや」コンサートに取り組み、成功させました。

久保山さんは今年、CMNを対象にした新しいコンサートを企画してくれました。それが今回の第7回「ル・セルクル」チャリティコンサート。その主人公は、久保山さんの娘さんでピアニストの久保山菜摘さん。国際コンクールでも高い評価を受けてい

る彼女のピアノを中心にした内容です。

彼女は小学校の時、地雷についての授業を受け、自分でも何か支援をしたいと自分のコンサートで平和のコーナを設け、ピアノと朗読という形で訴えてきました。今回はそのきっかけとなった地雷の授業を、当時の担任西岡美香先生が再現。

そして第2部は、ベラルーシの子どもたちの作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』から、リユドミラ・チュブチクさんの「わたしは生きる」を菜摘さんの素晴らしいピアノをバックに朗読。

その朗読をしたのは、『ものけ姫』で有名なカウンターテナー歌手、米良美一さん。朗読も、第3部での米良さんの歌も涙に包まれた感動のステージとなりました。

4月22日に福岡市、23日に鹿児島県始良市、29日に大分県日田市の3ヶ所で開いた今回のコンサートは、どこも立ち見の出る満席状態。またベラルーシ向けと東日本大震災向けの二つの募金箱にも多くの募金が入りました。

第2部ではCMNの活動を紹介するお話もさせてもらいました。医療支援を続けてきた私

ちだから感じる福島原発の状況の怖さが少しは伝わったでしょうか。

放射能の恐ろしさ、命の尊さをデータに基づいて話すことも大切ですが、やはり直接心に訴えかける音楽の力は偉大です。こういう形のアピールをこれからも模索していきたいと思っています。その意味で、「ル・セルクル」の久保山千可子さんと今後も協力しあっていけたらと思っています。(小山)



日田市での物販、大盛況でした。

4月23日

今語る、チェルノブイリ原発事故25年 チェルノブイリでの聞き取り調査と医療支援

広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市中区）にて、CMNの協力団体である「チェルノブイリ支援・広島医療協議会」主催の活動報告会が開催されました。

まず広島大学の星正治教授および、CMN理事の川原による挨拶があり、その後、広島大学の

川野徳幸准教授より、チェルノブイリ原発事故後に強制避難させられた住民に対する聞き取り調査についての報告がなされました。

報告では、避難した住民が移住先での慣れない生活から健康に不安を抱えたり、移住先で偏見を持たれるなど、色々な問題が指摘されました。

最後にロシア語医療通訳・コーディネーターの山田英雄さんより、旧ソ連での核開発、チェルノブイリ原発事故の被害状況と事故後も汚染地域で暮らす住民の実状、そして現地での医療支援、3月に起きた福島第一原発での事故との比較などが報告されました。

報道機関を含め、約40名の参加があり、関心の高さが伺えました。（川原）



約40名が参加

4月29日

放射能汚染地に住んで25年 チェルノブイリの今、そしてこれからの日本

チェルノブイリから25年目となる今年、被災地からゲストを招いての全国キャンペーンが企画され、ここ福岡でも「チェルノブイリ25年福岡県実行委員会」を立ち上げ、4月29日に福岡市で、5月1日には北九州市にて講演会が開催されました。

次に医学博士の振津かつみさんより、チェルノブイリの被害と救援活動、そして今年4月の福島訪問の様子について報告されました。

ゲストの第一人、パーベル・ウディチエンコさんが暮らすロシアのブリヤンスク州ノボズイプロフは

25年が経ちましたが、チェルノブイリは今なお人々の生活にその影を落としていることを改めて感じます。（三島）

チェルノブイリから約180キロ離れていますが、移住対象となる高汚染地域です。しかし当時住民の多くは移住資金がなかったため、そのまま汚染地で暮らす選択を強いられました。

放射能の影響で多くの命が奪われ続けている現実を受け、パーベルさんはチェルノブイリを単なる事故ではなく、大惨事と表現されました。



被災地の現状を伝えるパーベルさん

今こそ知りたい！日本の原発Q&A(1)



福島第一原発での事故後、放射能や原発について質問が数多く寄せられています。そこで今回の事故や日本の原発についてのQ&Aコーナーを作りました。2回に分けて、第1回では「日本と原発」、「福島とチェルノブイリ①」について理事長の河上が回答します。

❖日本と原発

日本にはどのくらい原発があるのですか。

日本には、運転中の原発が全国で18カ所、原子炉は55基あります。ただし福島第一原発の4基は今後廃炉となる可能性があります。

そもそも原発はどのようにしてはじまったのですか。

原子力発電は核兵器開発の中から生まれてきました。長崎に落とされた原爆の材料を作る装置こそ、世界最初の原子炉です。

1953年、アメリカのアイゼンハワー大統領が国連で演説を行い、原子力の平和利用に関する提案をしました。ここから軍事利用のための核物質を発電に利用する道が

開けました。

日本では1954年に原子炉築造予算が提出されたのが、原子力開発のはじまりです。

現在、日本各地で原発に反対する運動が起こっています。当時はどうだったのでしょうか。

実はこの予算が提出された前日、ビキニ環礁での水爆実験で、日本の漁船(第五福竜丸)が死の灰を浴びるといふ事件がありました。そして原水爆禁止の国民的運動が起こりましたが、原水禁運動では原発に反対しなかったために、原発の問題が一般の関心を集めることがありませんでした。

原発の建設予定地はどのように決まるのですか。

電力会社と地元の有力者との水

面下の話し合いで決まってしまうようです。

地元の反応はどのようなものですか。

多くの場合、原発建設をめぐって住民の意見は賛否に二分されます。事故が起きた場合の安全性や、低濃度の放射能を含む温排水が環境や健康に与える影響を懸念し、反対する声も多数あります。

一方で、巨額の交付金、保証金が国や電力会社から支払われます。これらの交付金は税金や電気料金から出ているので、最終的には消費者が負担しています。これらの交付金や道路やハコモノ施設の建設、雇用対策を理由に推進する声もあります。

福島県には10基もの原発があります。なぜ同じ場所にこんなたくさんの方々の原発があるのでしょうか。

原発立地市町村に流れるお金のうち、大きな割合を占めるのが原

発の固定資産税ですが、これは原発が建設されてから年数が経つと次第に金額が下がるため、自治体の収入が縮小していきます。原発が増設されれば、再び固定資産税が増えるので、地元から増設を要望する声が上がります。

また電力会社にとっても、新たな建設場所を見つけたのは大変なので、同じ地域に増設を繰り返すこととなります。

過去に海外で原発事故がありました。日本でも事故が起こるとは考えられなかったのでしょうか。

「多重防護の考えで念には念を入れた安全対策をとっているから、事故は起こらない」、「原子炉の炉心が傷つくような大事故(過酷事故)は起こらない」というのが、これまでの国や電力会社の主張でした。軽度の災害に対する安全対策はありましたが、「起こりえない事故への対策は行わない」という姿勢で、原発が作られてきました。

福島とチェルノブイリ

周辺住民の避難について、チェルノブイリと福島で違う点はありますか。

チェルノブイリの場合、原発労働者の町プリピャチでは翌日に、半径30キロの周辺町村は事故から1週間後の5月2日に避難が行われました。

福島の場合は最初は3キロ、次に10キロ、20キロと範囲を広げましたが、汚染の高い飯館村では計画的避難という形で1ヶ月経ってから避難が始まっています。

チェルノブイリでは数百キロ離れた地域にも高濃度汚染地が点在しています。風向きや地形などの理由で、一律に同心円状に被曝が広がるわけではないため、飯館村では健康被害を心配する地元の声も多く出ています。



チェルノブイリ原発
4号炉の「石棺」

被曝をすると、どんなことが起きるのですか？

放射線被曝には、体の外から放射線を浴びる「外部被曝」と、呼吸や食べ物を通して体内に放射線を取り込む「内部被曝」とがあります。

あるレベル以上の高い放射線を浴びて被曝すると、白内障や脱毛といった症状が現れ、最悪の場合には死に至ります。これらは「急性障害」と呼ばれます。

一方、被曝してすぐに症状は出ず、数年後、数十年後に、がんや遺伝的障害が出てくるケースもあります。これらの症状は「晩発性障害」と呼ばれます。

ただし晩発性障害の場合は、同じ程度に被曝しても、一定の割合で症状が出るため、病気になる人もいれば、ならない人もいます。

また被曝して数年後に症状が出るため、その原因が放射線によるものなのか否かの判断が難しいとされています。

チェルノブイリでは、原発の事故処理にどのくらいの人が従事したのでしょうか。

チェルノブイリ原発の事故処理

作業員(リクビダートル)は、総数で60〜80万人といわれています。

彼らの健康状態はその後どうだったのでしょうか。

リクビダートルのその後の状況はよくわかりませんが、健康な人が少なくなり、何らかの病気を抱えている人が増えているということは間違いありません。

日本では、原発労働者の通常時の被曝量の上限は年間50ミリシーベルト、緊急時の職業被曝量の上限は年間100ミリシーベルトですが、今回の事故に限り、この緊急時の上限が250ミリシーベルトに引き上げられました。

これらの措置に対し、「事故処理にあたる作業員の安全が軽視されているのではないか」という批判も見られます。

またチェルノブイリでは高い放射線被曝をしていない周辺住民にも健康被害が出た事例も多く、低線量だからといって、容易に安心することはできません。

健康面以外には、どういった影響があったのでしょうか。

経済面でも大きな打撃を受け

ました。1990年試算では、事故後14年間で失われる旧ソ連国内の生産基盤と財政支出は、計2千億ルーブルになるとされました。これは旧ソ連国家予算の4割に当たります。主に農産物の被害と供給電力の損失、事故処理費用で、医療費や経済活動の影響、個人の損害賠償などは含まれていません。

また事故当時の1986年は旧ソ連邦でしたが、バルト3国の民主化運動から独立へと進み、1991年、ついにはソ連邦の崩壊に至りました。この背景にチェルノブイリ事故による影響を指摘する声もあります。

福島原発事故により、現在日本の各産業も打撃を受けています。チェルノブイリでもそうであったように、放射能汚染は農業をはじめとする産業全体に大きな影響を与えています。今後は産業構造を変えて、再生可能エネルギー中心の社会とすることが必要になるでしょう。

※スペースの都合上、省略した質問もあります。また回答はできる限り簡潔にしました。団体ウェブサイトにより詳しいQ&Aを掲載し、回答の根拠なども加えています。

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの
「事務局スタッフブログ」
でも紹介しています。

<http://www.cher9.to/>

◆3月26日 ボラタン報告会



(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)にてボラタン報告会と任務終了式が行われました。3月までにCMNへきていただいた平川まみさんと藤野さんも参加され、CMNでの活動について報告していただきました。他団体での活動を知ることもでき、色々と参考になりました。

報告中です。

◆5月3日 第1回北九州9条まつり



会員さんご紹介で、憲法記念日に北九州市小倉北区で開催された「北九州9条まつり」に参加させていただきました。雨は降らなかったものの、時おり強風が吹くというあいにくのお天気でしたが、展示した福祉工房「のぞみ21」商品がたくさん売れました。ありがとうございました。

あいにくのお天気…

◆5月6日 北九州市立大学で講演



講演中の山田さん

「NPO論」という講義で、ゲストスピーカーとして呼んでいただき、医療通訳の山田英雄さんにお話をさせていただきました。旧ソ連での核開発や福島での事故についてなど、多義にわたる内容で、少々難しかったかもしれませんが、一人でも興味を持ってくれる人がいればいいなと思います。

◆5月16日 あすみん夢ファンド報告会



約30名が参加

福岡市NPOボランティア交流センターにて、平成22年度あすみん夢ファンド報告会が開催されました。CMNでは昨年「ヘアサロン・スネガビーク」に対し、15万円の補助をいただき、事業の概要や成果、今後の課題などについて報告させていただきました。

◆5月22日 FUNN総会に参加



審議中です。

福岡市内で開催された(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)の通常総会にて、昨年度の事業、収支報告と今年度の事業計画、予算等についての審議・承認が行われました。これからも地方に根付いたNGOとして、ともに頑張っていきたいと思っております。

☪ ☪ ☪ ☪ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ☪ ☪ ☪ ☪

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍)を合計5千円以上(※先着20名)または1万円以上(※先着15名)ご注文いただいた方に、下記の商品をプレゼントします！

◆プレゼントはこちら◆

5,000円以上の方へ

ドリップコーヒー1袋(12g入)

10,000円以上の方へ

ポケットティッシュケース1個

(W12×H10cm)

期間 2011年6月15日(水)～7月15日(金)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります。



※2011年5月より価格を改定しました。詳しくは同封のコーヒーカタログをご覧ください。

私も応援しています！
**会員さん
紹介コーナー**
Vol.12

このコーナーでは、チェルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材／三島

本日の会員さん

村上 和代さん

<大分県中津市>

肩肘を張らず、自分にできることから。

20年くらい前にグリーンコープ生

協に加入して、ある時カタログに同封されていた支援募金の申込チラシを見たのが、チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)の活動を知ったきっかけです。

事故当時は高校生で、大変なことが起きたんだという程度に考えていました。数年後にそのグリーンコープのチラシを見て、まだ被害があり、これだけ後々までずっと続いているのかと改めて感じました。

そのチラシの文章を読んで、今でもチェルノブイリ原発事故による放射能の影響で困っている人がいること、そしてそのような人たちが日本のお医者さんが助けに行こうとしていることを知りました。そこで、少しでも応援できればと思い、

募金を申込みました。

その後、CMNから会報をいただくようになったので、それからは直接団体へ募金をするようになりました。

またチェルノブイリ支援コーヒーの存在を知り、自分の好きなコーヒーを飲むことで役に立てるならと思つて購入するようになりました。

コーヒーの注文などで電話をしたとき、スタッフさんの感じがよくて、名前も覚えてくれて嬉しく思いました。こちらとしてもまた応援しようという気になります。

募金をするときの支援の分類で、「のぞみ21」カンパと「雪だるま3号」カンパ、一般のカンパがありますが、こちら側からだど、どの分野が足りないのか内輪の現状がわか



りません。私としては足りないところへ一番に使ってほしいので、会報などでどこが足りないか教えてほしいと思います。また指定しなくても足りないところに使ってもらえるような「おまかせコース」があっても良いのでは、と思います。

4月の終わりに大分県日田市であったチャリティーコンサートに行つて、理事の小山先生のお話を聞きました。ペラルーシへ日本の医療技術を伝えることなど、わかりやすい説明で活動内容をよく知ることができました。

またコンサートではピアニストの久保山菜摘さんが小学5年生のときに受けた平和授業の再現があり、「世界で困っている人たちのために自分にできることはないだろう

か」と考え、次の年からチャリティーコンサートを始めたということでした。若い世代の人が、肩肘を張るわけでもなく、ただ自分ができることをやっている姿が印象的で、私も難しいことでなくても良いので、身近なところからできることをやっていこうと改めて思いました。

国や電力会社は日本で原発事故は起こらない、大丈夫だと言っていたけど、福島での事故があり、やはり原発はこわいものだなと思いました。同じ日本にいながら、空気も吸えない、こどもたちが外で遊ぶ時間を制限される…、かつてチェルノブイリのこどもたちが描いた絵と同じことが日本で起こっているとすると、とても悲しいです。被災地の方に早く元通りの生活が戻ってほしいと思います。

多くの人は原発がないと電気が足りないのでは？と考えていると思います。CMNにはチェルノブイリのことだけでなく、福島のこと、日本の原発に関する基本的なことなどについても伝えてほしいです。大きなことはできませんが、これからもコーヒーを飲んでお手伝いできればと思います。(談)

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同 敬称略)

赤木真由美 E Village 碓秀子 池上高子 伊崎由雄子 石栗徳子 石橋芳子 板井順子 伊藤和夫 稲吉清子 井上聡子 井上敏 井上春海 井上京子 岩井圭子 岩川親良 上野恵子 宇都宮裕子 江田利香 榎本みつ枝 大石楊子 大迫睦美 大島幸子 大田澄子 大塚厚 大森智子 大和田美生 緒方晶子 緒方真穂 緒方フミコ 小楠小学校児童会 小田八重子 落石久子 小畑智子 甲斐真弓 角場純子 片岡直樹 片山南南江 勝連夕子 金山涼子 飯屋園幾代・今日花・昴介・柗 川崎巳代治・幸子 河野章子 神崎幸子 堀江誠子 北野博 北村由子 久保埜幸子 栗田光子 グルーブ・ブー・ハトーヴ 桑田陽子 古賀由紀子 小塩恵理子 小宮田鶴子 小山博子 坂本道子 佐々木郁江 佐々木孟 定村洋子 佐藤洋子 庄籠道子 進優美 進藤輝幸 洲崎悟 鈴木きぬ子 駿河みどり 関根敏子 高橋由紀子 高山幸子 田尻ヤスエ 立石肇 田中直子 田名橋由紀 椿真紀子 坪川裕子 鶴園直美 てんびんカイロ 富永峰子 永池千恵子 中川静代 中島幸代 中嶋博美 中島真知子 中島まゆみ 長棟かおる 中村文子 中本治嘉子 中山久仁子 成泊秀美 西浦ちえみ 西下文子 西谷純子 野中真智子 法輪文 橋爪紀生子 畑辺優子 東真喜子 樋口真樹子 日高太 日野正平 福井寿雄 福永弘恵 福山知恵子 藤澤朝香 藤田信子 富士埜富美子 前田晶子 前田祐子 松尾満子 松下卓治 松田久美子 松田智和 松永和子 丸田裕子 実取久美子 実藤正義 宮本美智子 村山敬子 森悠子 盛岡光恵 安岡繁子 八尋千鶴子 山崎慎子 山名弥生 横田典子 吉元京子 四元洋子 渡辺穂子

【都道府県別】
 【北海道】1名 【東京都】3名 【神奈川県】1名 【千葉県】1名
 【栃木県】1名 【長野県】1名 【三重県】1名 【富山県】1名 【大阪府】3名 【和歌山県】1名 【島根県】4名 【岡山県】6名 【広島県】8名 【山口県】3名 【福岡県】42名 【佐賀県】4名 【長崎県】7名 【熊本県】19名 【大分県】9名 【宮崎県】3名 【鹿児島県】8名

合計 1,562,371円

活動支援金の
のぞみ21カンパ 1,480,771円
雪だるま3号カンパ 47,100円
34,500円

●マンスリーサポーターの皆さん

相川靖 相羽美香子 麻生編代 E Village 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 稲田照子 若口香織 上田英子 植田清子 内野和美 内野千鶴子 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 古賀輝洋 後藤宇企子 財津悠子 齊藤美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早苗 佐藤江 佐藤進一 佐藤照子 城景子 白浜千恵子 鈴木弘子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子 朱加綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 友景忍 鳥井原桐子 鳥原良子 永江之子 永尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 檜崎悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富富代 平原久子 廣松初美 福井初子 福本勲子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 前田靖子 松尾智恵子 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 村田聡子 村西美由紀 室屋若乃 森川キミエ 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 吉野陽子 吉村啓渡邊真志子
 計105名(匿名含む)

(2011年2月1日〜4月30日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、支援コーヒー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいます。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

編集後記



今号では2つの連載をお休みにして、原発に関する特集を掲載しました。また震災を受け、会員の皆さまから数々のメッセージ(※一部を下記にご紹介)をお寄せいただいた他、ペラルーシ赤十字、ミンスク10番病院、プレスト州立内分診診療所、福祉工房「のぞみ21」、NGO「コンフィデンス」代表のイリーナさんとスタッフのリューダさんより、お見舞いのメッセージが届きました。(み)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●日本に世界に原発はいらない! ●大変な災害が起きました。原発とても不安です。●人間の手に負えない原発を今こそ廃炉に! ●前号の清水先生の報告で日本とペラルーシ双方が意義のある救援活動、医療支援だと再確認できました。●チェルノブイリ原発がいつきに身近なものになりました。●事故が発生しないと原発に目が向かなくなった事実が人類はまた分かったでしょうか。●チェルノブイリの事、原発の事を改めて考えさせられます。●一番実現してほしいくない原発震災が現実のものとなってしまいました。一日も早い解決を望みつつ、チェルノブイリの教えが日本で活かされなかったことに責任を感じています。●日本でも原発事故が起きてしまいました。チェルノブイリを教訓としてもっと原発の運動が高まっていたらと自分自身に後悔しています。●とてもいい香りのコーヒー、被災地の皆さんに届けてあげたいです。●チェルノブイリは決して他人事ではないと思っています。●日本は絶対だめですね。支援活動、今後もぜひ続けて下さい。●日本の原発でも大きな事故があり、チェルノブイリの恐ろしさを改めて感じています。被害を受けた方が少しでも希望を持ってればと思います。●原発の恐ろしさはチェルノブイリ事故の報道で知っているつもりでした。そして又、日本の福島で…。動き出したら止められない!! その事の恐ろしさを改めて感じています。●原発に頼らない世界を願っています。●とうとう日本の原発もチェルノブイリ化してしまいました。●こんな時こそ「学び」の姿勢を忘れずにいたいものです。●原発事故のこと、もっともっと知ってほしいことと思います。●「フクシマ」ただ茫然としています。次にすることを考えたいと! ●子どもたちに対して大人としての責任を痛切に感じます。●被災された方々が少しでも早く元気になるように祈っています。●日本でもおこってしまいました。チェルノブイリの事故をあらためて思い出します。●東北大地震での福島原発の事故は原発安全神話にだまされた自分に悔しい思いをしています。原発反対!